

連携医院のご紹介

今回は「患者様とご家族の健康を支えられる医院」をめざしておられる「はしもと内科」の橋本義政院長にお話を伺いました。



橋本義政院長

はしもと内科

〒730-0822
広島市中区吉島町1丁目27-20
電話/082-244-5577
名誉院長/橋本 久勝
院長/橋本 義政
診療科/消化器一般



○いつ開業されましたか。

昭和57年に父、橋本久勝が、現在の場所に「はしもと胃腸科内科」を開業しました。平成26年11月に医院を継承し院長となり、平成27年3月に有床診療所としてリニューアルしました。

○開業されてから今までのことを教えてください。

前院長は消化器一般が専門で、検査・治療を行ってまいりました。私も消化器一般で主に肝臓を専門に診療してきましたが、総合内科専門医の資格も取り、内科全般の診察も行っています。先代から行ってきたサービス、居宅介護支援事業所も継続しております。また、通院が困難な高齢の患者様には在宅診療も提供させて頂いております。病院もリニューアルし入院も可能になりました。

○毎日の診察で大切にしていることはなんですか。

吉島の地に生まれ育ち、幼少時代からお世話になった方もおり、病気はもちろん病気以外のことでも生活の力になることをお手伝いできれば、1回1回の診察を大事にしています。今までお世話になった地域の方々にご恩返しができればという思いです。

往診にも外来・入院病棟スタッフに同行してもらい、自宅でも入院時も同じスタッフで安

心して医療を受けていただくことができる事を目的にしています。スタッフも大変だと思いますが、私のわがままに付き合ってくれてありがとうございます。本当に感謝しています。

○開業医のやりがいは何ですか。

今まで勤めていた頃と比べて、患者様との隔たりなく近い距離で診療が行え、地元の吉島という地域で長く付き合っていくことにやりがいを感じます。

○県病院はどんなところですか。

夜間の急患の時も紹介をすぐ受けてくださり、助かっています。研修医時代に板本副院長にもお世話になり、県病院には後輩もいて紹介しやすいです。また紹介した時には必ず細かい結果など、丁寧な返事が返ってくるのでありがたいです。



はしもと内科外観

【取材後記】

取材中もサービス中のお年寄りの元気な歌声が聞こえてきて、病院も生活の一部であるアットホームな感じを受けました。地域の方々の暮らしを支えている、地域に根ざした病院であると感じました。

もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。
県立広島病院で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)



理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

消化器疾患の患者さんに対し、高度な専門医療を安全かつ迅速に提供します。

消化器センター

6
5
病棟
西南

近年ますます増加する消化器疾患で受診される患者さんに対して、より迅速に、よりの確な診断および治療をご提供するために、消化器センターを開設いたしました。



消化器センターの理念

- ・患者さん中心の専門性の高い医療を提供します。
- ・絶えず医療の質の向上を追求します。
- ・より早く、より正確で、より安全な医療を提供します。

診療する主な疾患

悪性疾患

- 食道がん
- 胃がん
- 大腸がん
- 肝臓がん
- 胆のうがん
- 胆管がん
- 膵臓がん など

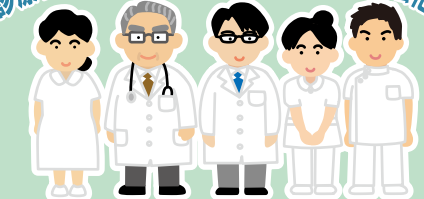
良性疾患

- 炎症性腸疾患 (潰瘍性大腸炎、クローン病など)
- 胃潰瘍・十二指腸潰瘍
- ヘリコバクターピロリ感染
- 大腸ポリープ
- 消化管出血
- ウイルス性肝炎 (B型肝炎、C型肝炎)
- 自己免疫性肝疾患
- NASHなどの脂肪肝
- 肝硬変
- 胆のう結石
- 胆のう炎
- 胆管結石
- 胆管炎
- 急性膵炎 など

チーム医療の実践

1日も早く治療をしたいという患者さんの要望に応えるために、初診・診断の段階から、その後の治療計画を見据えて、診療科・職種横断的なチーム医療をさらに充実させ実践しています。

診療科・職種の枠を超えたチーム医療を強化!



待ち時間の短縮

当センターでは、患者さんのできるだけ早く治療したいという要望に応えるために、初診から治療開始までの期間を可能な限り短縮します。

診断確定から1週間以内での治療開始が可能です!

7月						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3 診察	4	5	6	7 治療	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

※受診ご希望の患者さんは、かかりつけの医療機関(医師)にご相談いただき事前診療予約をした上、紹介状持参でご来院ください。

県立広島病院からのお知らせ

緩和ケア・ターミナルケアヘルパー・介護員研修

- 開催日 平成29年 8月22日(火)・24日(木)の2日間
- 時間 9:00~16:30
- 場所 新東棟2階 総合研修室
- 申込期間 平成29年7月18日(火)~8月1日(火) 必着
- 参加費 3,000円(資料代)
- 対象 次の要件を満たし、全課程(2日間)をすべて出席できる者

県内の介護保険指定事業所・介護保険施設に所属している介護福祉及び2級以上のヘルパー、介護員

問合せ先 広島県緩和ケア支援センター 緩和ケア支援室

※詳細は『広島がんネット』ホームページでご確認下さい。
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/gan-net/>

7月のがんサロン

- 開催日 平成29年 7月26日(水)
- 時間 14:00~15:00
- 場所 新東棟2階 総合研修室
- テーマ 『栄養と食事のヒント ~カロリーアップ&ダウンのポイント~』
- 講師 管理栄養士 渡辺 多栄
- 対象 悪性腫瘍(がん)で通院 または入院されている患者さん 及びそのご家族
- 問合せ先 がん相談支援センター
☎082-256-3562 (担当:奈須)

当院HPの栄養管理ページにレシピを公開しています。是非ご利用下さい!



栄養マン

総合周産期母子医療センターとして認定されています。

県病院で安心なお産を!!

当院は安全で満足のいくマタニティライフが過ごせるよう、高度で質の高い医療を提供します。



立会い出産

- ・母子を守る高度な医療環境
- ・充実した医療スタッフ
- ・他科と連携した治療が可能
- ・きめ細かなサポートで退院後も安心

当院には助産師27名が所属しています。そのうち11名がアドバンス助産師です。(県内最多数)



マタニティ相談



母親学級



妊娠期

妊婦健診 当院の医師が行う赤ちゃんの超音波健診は、体の大きさや羊水量だけでなく、赤ちゃんの血流や心臓・腎臓など詳しく検査を行っています。

マタニティ相談(無料) 妊娠期の生活や日頃の心配事・分娩についてのお話を、助産師が外来で個別に相談にのっています。定期相談としてお産までに2回行っていますが、随時対応しています。

各種教室 母親学級(第1課程、第2課程の計2回)では妊娠中の生活やお産について、助産師がお話します。また、パパマスクールにはご主人も参加していただき、お産の心構えや過ごし方についてお話しています。

出産 当院では母子同室で、お母さん一人ひとりに寄り添って24時間体制で母乳のケアを行っています。産科病棟とNICU(新生児集中治療室)は同じフロアにあり、新生児科医師が毎日赤ちゃんの診察を行い、健康状態をしっかりチェックしています。その他、赤ちゃんの健康について、当院の小児感覚器科、小児外科など多くの科と連携しています。

入院中 自然分娩・ハイリスク分娩、すべての分娩に対応しています。陣痛室ではご家族でゆっくり過ごすことが可能で、正期産で経膈分娩の方を対象に、ご主人の立会い出産を行っています。(立会い出産希望の方は、パパマスクール、母親学級のご夫婦での受講が必要です。)また、緊急時には手術室で、お母さんと赤ちゃんの命を最優先に帝王切開を行います。手術室には、産科医師だけでなく新生児科医師が必ず立会い、生まれた赤ちゃんをすぐに診察します。

退院後 退院後も楽しく育児をしていただくために母乳外来を設けています。母乳外来では助産師が乳房マッサージ・授乳のお手伝い・赤ちゃんの体重測定などを行っています。また、生後1~6か月の赤ちゃんと、そのお母さん・お父さんを対象として、ベビーマッサージクラスを開催しており、肌の触れ合いを通して心豊かに育つための土台を培っています。

外科医の独り言 no.70

— キレル —

以前から『キレル子供』、『キレル若者』という言葉をよく聞きますが、最近はそのキレルのあとに中高年、老人という言葉がくることが多いようで、結局、キレルには歳は関係なさそうです。昔ならカルシウム不足で済まされて、牛乳を飲むことを勧めていましたが、原因はそんなに単純なことではなさそうです。空腹時には低血糖のためにイライラはしますが、それだけではキレルことはありません。脳内ホルモンのうち、ドーパミンは快感、アドレナリンは恐怖・驚き、ノルアドレナリンは怒りを造ると言われています。セロトニンはこれらのホルモンをコントロールしていると言われており、脳生理学的に言えば、キレル原因は「セロトニン不足」ということなのでしょうが、それだけでは対処の仕様もありません。

ヒトの脳には前頭前野という部位があり、ここが物事全体を把握して、欲望や感情を抑える働きをしており、腹が立つことがあっても、ここは冷静な対応をしよう、というような判断を下すのがこの部分に相当します。歳をとってきて脳が萎縮すると当然この領域にも機能低下が起こり感情をコントロールできなくなることは容易に想像できます。ただし、脳の萎縮が起こっていても、常時キレルわけではありません。おそらく様々な要因が積み重なって、ちょっとしたことで引き金となってキレルしまう、これは私も含めて誰にでも起こり得ることだと思います。当然、加齢や空腹のみならずストレス、睡眠不足や、最近では長時間のスマートフォン、パソコン操作も要因の一つと言われています。

ある有名な博士曰く、かつては生きるために必要とされた怒りのエネルギーが、現在の便利な生活ゆえに行き場を失い不発気味である。そこで現代人は取るに足らないようなことにせせせと怒りのエネルギーを使うようになったと。テレビによ

く見るキレル光景は、事故で交通機関に不測の遅れや運休が発生した時に駅員や職員に詰め寄る中高年男性の姿です。文句を言ったからと電車が動く、あるいは飛行機が飛ぶわけもなく、言うてどうにもならないことは分かっているのにキレてしまつてしつこく抗議をしています。抗議をすることではストレスが発散されて落ち着くのだとは思いますが、抗議を受ける方はたまったものではありません。資料作りで睡眠不足、連日の会議、そして朝食抜きで大事な商談に出張するために駅に来たところ、運休と聞いて「ブチッ」と切れてしまったのかもしれない。あるインターネット上でのアンケート調査で、日常生活の何に一番キレているかを聞いたところ、第3位バスが来ない・動かない、第2位交通渋滞、を押さえて第1位はなんと、病院の待ち時間が長い、ということだったそうです。絶食で病院に来ているために空腹で、待てど暮らせど呼び出しがなく、本当に受付ができていないのかと不安になっているところに、職員の不用意な一言が、患者さんをキレさせてしまうのでしょうか。当院では、待ち時間短縮に向けてのカイゼンを引き続き行ってまいります。という私も何度か患者さんをキレさせたことがあります。もう、20年以上前になりますが、ご高齢の「お爺さん」が意識障害で運ばれてきました。意識が朦朧とした患者さんに、「お爺さん、大丈夫ですか?」と声をかけたところ、「お爺さんとはなんじゃ、ワシには〇〇という名前がある、おまけに大丈夫じゃないから病院に来たんじゃ!」とキレられてしまいました。確かに、最初に「お名前を教えてください」と聞けばよかったと後悔しましたが、このことで意識はしっかりしていると確認できたことは幸いです。副院長(消化器センター-消化器・乳腺外科主任部長) 板本 敏行



脳心臓血管センターカンファレンス

脳心臓血管センター長：上田浩徳

Stanford B型大動脈解離

大動脈解離は血管の壁が裂ける病気で急性期の症状は「胸背部痛」です。心臓から出たすぐの上行大動脈が裂けるStanford A型とそれより先の下行大動脈が裂けるStanford B型に分類されます。A型は緊急手術の対象ですが、B型は保存的治療が第一選択です。近年、B型解離は人工血管付きのステントの進歩によりカテーテルでの治療(TEAVR)が可能で、安静・降圧療法でも病状の悪化や大動脈血管径が拡大(最大径40mmが目安)する場合はTEAVRを考慮しています。【心臓血管外科：前田和樹】

めまいの診療

「めまい」は自分ないし周囲が運動しているように感じる異常感覚または平衡機能障害と定義されます。ぐるぐる回るような回転性、何となくふらふらする動揺性、気が遠くなるような失神性が主な症状です。原因は耳鼻科疾患などの末梢性、脳血管障害などの中枢性、徐脈・血圧低下に起因した心血管性があります。特に中枢性は重症度の高い場合があり、対症療法で改善しない場合は注意が必要です。【脳神経内科：棚橋梨奈】

脳心臓血管外来

毎週金曜日の午前中

疾患や症状にご心配の場合は、かかりつけの先生にご相談の上、紹介予約をお願いします。各専門医と連携し、診療いたします。